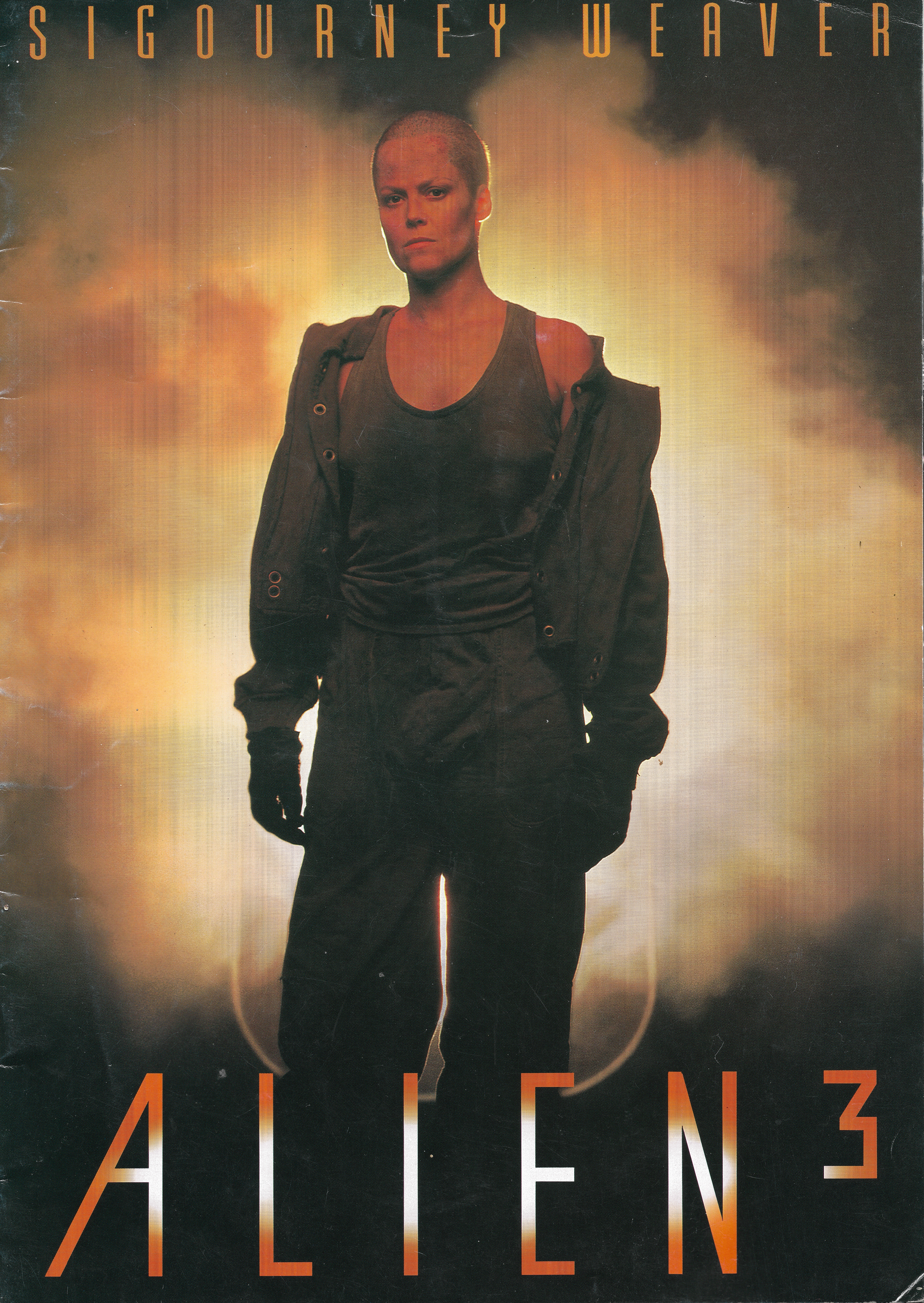

SIGOURNEY WEAVER
ALIEN 3



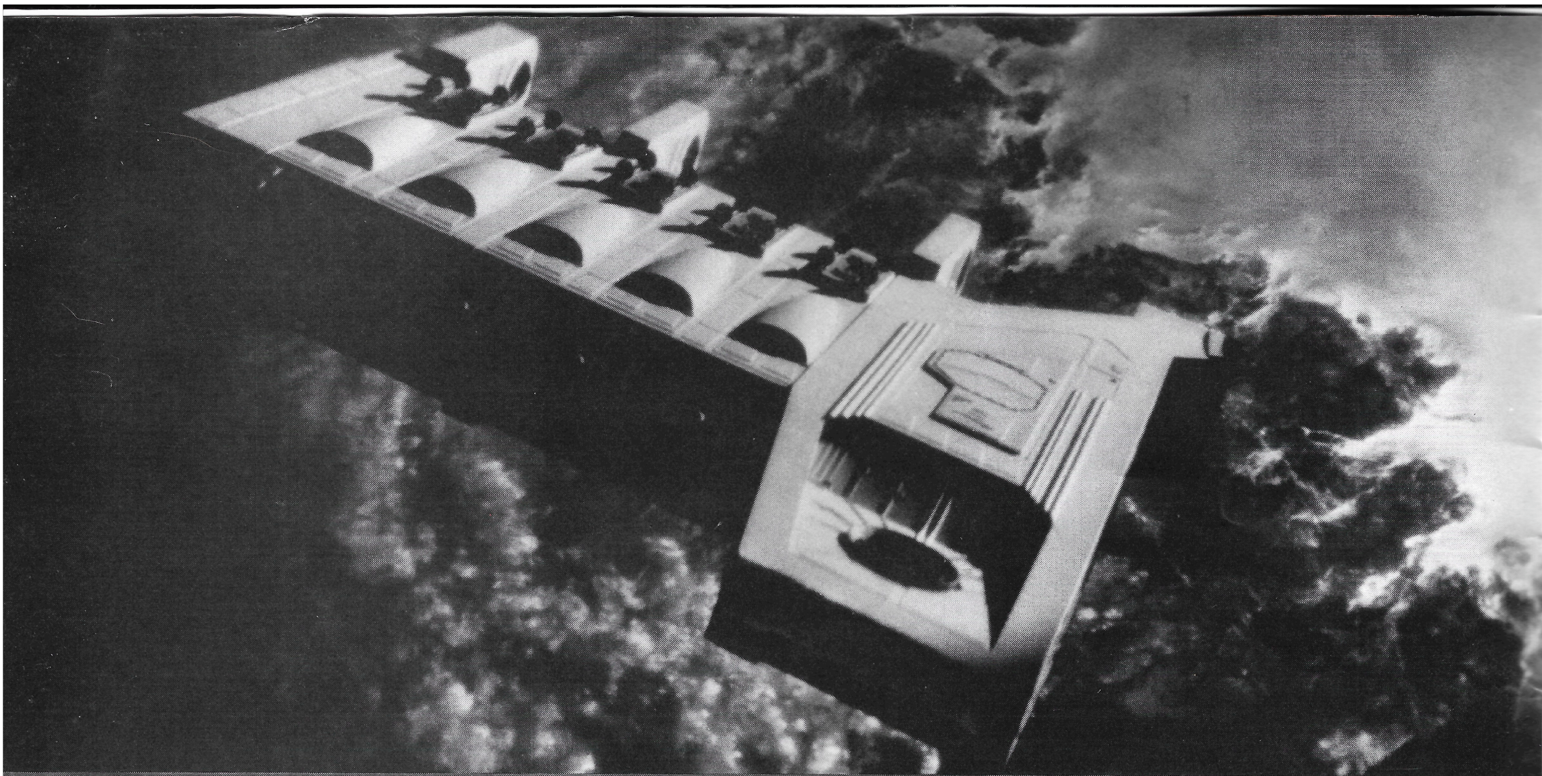
1979年、人類はエイリアンと遭遇。
1986年、それは永遠に去った。
1992年、今度は人類が危ない。

あいつが戻って来た。

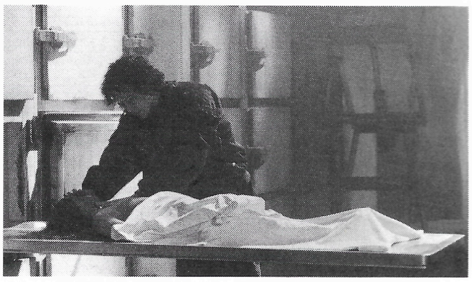


エイリアン^3











I N T R O D U C T I O N



「エイリアン」

解説

今度のあいつは、想像を絶する恐ろしい所に隠れている.!!──

衝撃的なストーリーで展開する待望の「エイリアン」シリーズの第3作が、前作から6年の歳月をへて、ついに完成した。ストーリーの詳細は極秘にされています。どうかご覧になった方は、衝撃の内容を絶対にお話しにならないでください。

ハイパー・スリープ（睡眠カプセル）の中で眠りながら救命挺EEVで宇宙空間を漂っていた航海士リプリーたちは、囚人の流刑地として使われている惑星〝フィオリーナ161〟に不時着する。そこはシラミが蔓延し服役中の全員が頭髪を刈られ、非人間的で荒廃しきった惑星だった。

宇宙から追放された凶悪犯たちは、彼らだけの宗教を持ち、女性は欲望を誘発させる生き物として拒絶されていた。そんな野獣のような男だけの世界に、墜落事故でたった1人リプリーは生き残った。しかもまたエイリアンが、囚人たちとリプリーを襲ってきたのだ.!!──

今回は閉じこめられた世界で、エイリアンが猛スピードで襲ってくる恐怖が圧倒的な迫力だ。

リプリーを演じるのは、もちろんシガーニー・ウィーバー。「エイリアン2」ではアカデミー主演女優賞候補になった彼女の当たり役で、今回は「ゴーストバスターズ2」以後、出演交渉をすべて断わり、3年間こんどの役作りと撮影に専念。スキン・ヘッドで体当りの熱演が話題を呼んでおり彼女は今回は共同プロデューサーも兼ねている。

シリーズの製作を兼ねアクション映画の巨匠でもあるウォルター・ヒルを中心に、やはり製作を兼ねる脚本家でもあるデイビッド・ガイラーが、「レッド・オクトーバーを追え!」のラリー・ファーガソンを加えて3人で脚本を練りに練って完成。

ストーリーはニュージーランド出身で「ビジル」などを監督しているビンセント・ウォードが担当。

製作にはシリーズを手掛けてきたゴードン・キャロルも加わり、製作総指揮は「メル・ブルックスの逆転人生」のエズラ・スワードロウがあたった。

監督のデイビッド・フィンチャーは、マドンナなどのミュージック・ビデオやＣＭで売っていた27歳の新人。劇場映画はこれが初めてで、未経験の新人に5000万ドルを超える予算の超大作をまかせるケースはアメリカ映画史にも前例がなかった。だがスピルバーグが28歳で「ジョーズ」を大成功させた。デイビッド・フィンチャーという天才を得て、ハリウッドは〝第2のスピルバーグ神話〟を、また後世に残すと評され、彼のパワフルな演出力があらためて目を見張らせている。

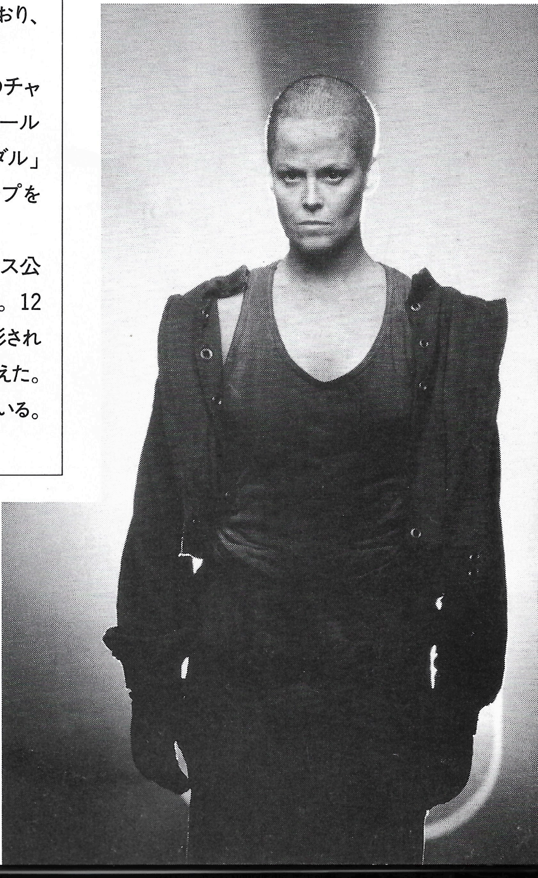
今回はシガーニーの共演陣に、舞台経験豊富な演技派の性格俳優が多数共演しており、ドラマチックな厚味を作品に加える。

囚人のリーダー格ディロンを演じるのは「ジャックナイフ」「クロコダイル・ダンディー2」のチャールズ・S・ダットン。刑務所内の医師クレメンスに「パスカリの島」「白い炎の女」のチャールズ・ダンス。囚人の監督に「KAFKA迷宮の悪夢」のブライアン・グローバー。「スキャンダル」のラルフ・ブラウン、「太陽の年」のダニー・ウェッブ。そして前作のアンドロイド、ビショップを演じたランス・ヘリクセンが同じ役で登場。その役割も注目のポイントだ。

91年1月14日からイギリスのパインウッド・スタジオで撮影が開始され、最初、クリスマス公開予定だったが、撮影終了後クライマックス部分の撮り直しをフィンチャー監督が要求。12月10日から2週間にわたり、1500万ドルの追加予算で想像を絶するラスト・シーンが撮影された。1本の映画が作られるほどの大金を投じたクライマックスは、またまた大きな衝撃を与えた。特に今回はリプリーのエイリアン絶滅2大スペクタクル・シーンが最大の見せ場になっている。全米では5月22日から公開され大ヒットになっている。



「エイリアン2」





スキンヘッドは監督のアイデア









SYNOPSIS





ストーリー

ハイパー・スリープ(睡眠カプセル)の中で眠っているリプリー(シガニー・ウィーバー)たちを乗せたEEV(非常脱出救命挺)は、宇宙空間を漂っていた。ところが、突然の事故発生と共に、軌道をはずれたEEVは灰色の惑星〝フィオリーナ161〟に不時着した。かつて何千人もの犯罪者が、刑罰として送り込まれた惑星には労働矯正施設があり、囚人たちが服役していた。

彼らを監督しているのはハリー・アンドリュース(ブライアン・グローバー)と、そのアシスタントのアーロン(ラルフ・ブラウン)、ほかに医者のクレメンス(チャールズ・ダンス)らがいた。

墜落事故でただ一人だけ生き残ったリプリーは、病院で意識を取り戻した。フィオリーナ161にはシラミが蔓延していて、全員が頭髪を刈り取られていた。

彼女は同乗していたニュートとヒックスが死んだことを知らされ深い悲しみに落ち込んだ。事故の原因を突きとめるため、ニュートの死体を検死してもらったが、特別に異常はなく、リプリーは地球への帰還の見通しのない中で、髪を剃り長びく滞在を覚悟する。

鉛工場の冷い溶鉱炉の中でニュートとヒックスが火葬にされ、涙にくれてリプリーが見送った頃、悪夢の第一歩が始まっていた。

野獣のような男ばかりの集団にリプリーの出現は異常な反応を巻き起こしだした。男たちは女人禁制の宗教を持っていたが、ある夜、リプリーは男たちに集団で襲われる。かつてエイリアンと戦った強い彼女は男を殴り倒し、身を守った。

リプリーは、囚人たちの精神的リーダーであり、かつては強姦殺人犯だったというディロン(チャールズ・S・ダットン)のカリスマ的な魅力に圧倒されるものがあった。

鉛工場の溶鉱炉には、一匹の犬がいたが、ある日、突然その犬に異常な症状が起こり、やがてその犬の口から液体をたらし4本足のエイリアンが飛びだしてきたのだ。空気管を清掃していた囚人は、まだ幼いエイリアンに襲われると逃げだし、空気孔のスクリューに全身を巻きこまれ、肉片と血しぶきを吹き散らして死んでいった。やがて第2、第3の犠牲者が発生。犬から生まれたエイリアンは足が速く、猛スピードで囚人たちをえじきにして残虐に殺していった。

通気孔から地下道にしのびこみ、囚人を殺すごとにエイリアンは、しだいに大きくなり、ついには全長8フィートと化して酸を吐き散らしだした。

リプリーは、EEVがフィオリーナ161に墜落した原因が、EEVに潜入していたエイリアンにあったことを突きとめたばかりか、彼女の身辺にもエイリアンはしのび寄ってきたのだ。

リプリーは、かつて彼女と戦ったアンドロイド、ビショップ(ランス・ヘンリクセン)を鉄屑置場に捜しあて、新しい情報を求めだした。

フィオリーナ161には、エイリアンと闘うための武器らしい武器は何一つなかった。

リプリーは鉛工場の地下の危険廃棄所にエイリアンを追いつめ、閉じこめて焼き殺す計画を進める。もう一つの計画は、エイリアンを鉛工場へ誘い、エイリアンを燃えたぎる溶鉱炉の鉛と共に溶かしてしまおうという作戦だった……。





……………たった今、観終ったあなたのための……………

『エイリアン3』の蛇足な知識

◉上岡雅史（かみおか まさし）

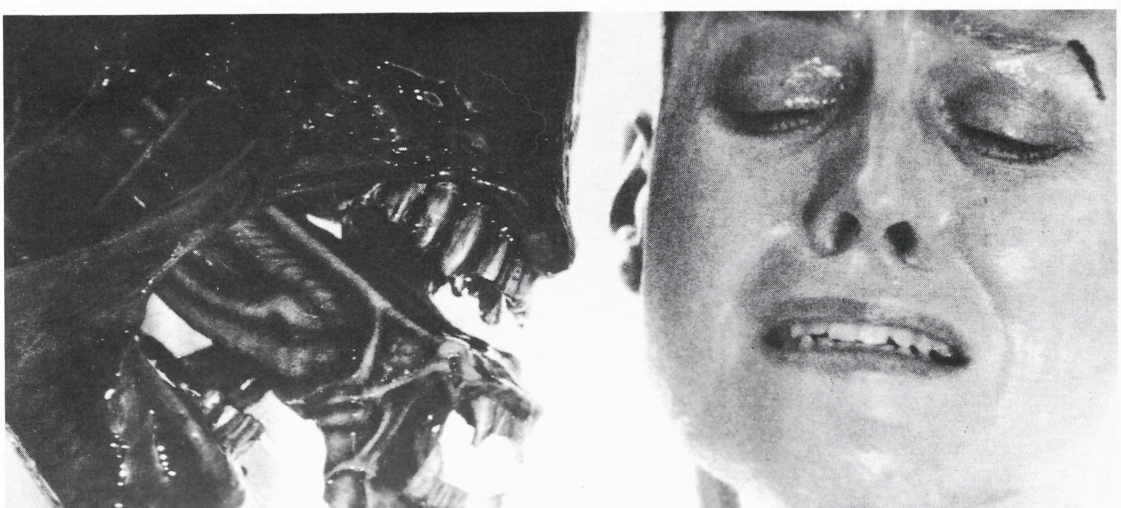
〝3〞という数字は、さまざまな形で物事の節目となることが多い。『エイリアン3』がいかなる物事の節目を迎えたかは、たった今本編を観終わったはずのあなたが一番よくご存じだろう。シリーズは足掛け13年を経て、ついに『エイリアン』とシガーニー・ウィーバーの関係を清算し、60年に及ぶ〝エイリアン〞とエレン・リプリーの関係をも清算した。シガーニー・ウィーバーをスターダムに押し上げた〝エイリアン〞シリーズは、ついに共同プロデューサーとなったシガーニー・ウィーバーによってひとつの終焉を迎えたのだ。「リプリーかわいそー」という多感なあなたも「ふん。ついに『T2』して果てたか」という反社会的なあなたも、こればかりは認めないわけにはいかない。リプリーのスキンヘッドは言うに及ばず、神秘的に流れる〝アグネスの子羊〞に始まる『エイリアン3』は、冒頭から宗教色の濃い幕を開ける。ヒックスとニュートの埋葬場面に交互して、象徴的に描かれる新種エイリアンの誕生シーン。その姿は恐怖の宇宙生物と言うより、この世にいでたる凶々しき悪魔と呼ぶに相応しい。劇場を後にするぼくらにできるのはただひとつ、聖女リプリーの死を静かに弔うことだけである――アーメン。

これで済めば世の中万々歳なんだが、冗談じゃない。ぼくらは聖職者でもなければそんなお人好しでもない。頭ぁ剃ったくらいで簡単に『薔薇の名前』できると思うなよ――とまでは言わないが、このままで済んだらヒックスもニュートもおよそ浮かばれません。機骨のビショップまでが「私は疲れた。もう休ませてくれ」だなんて。その辺に散らばってるガラクタでも集めて全部つないで「私が生きた司令室になる！」とでも言ってくれたらよかったのに。そもそも、なんで三人（二人と一体）は死ななきゃなんないの――って、もちろん物語をスマートにつなぐためですね。これを『エイリアン』から『エイリアン2』へのプロセスを見ればよくわかる。四人もごっそり生き残ったんじゃ物語の始末が大変だ。エイリアンに襲われる以外の理由で始末したんじゃそれこそ〝かわいそー〞だ。どうせ足手まといなら、最初からお亡くなりになっていただいた方がきれいさっぱり後腐れがない。それにしても、ニュートのガラスの瞳を見せるとは。ヒックスなんか、EEVの中でぺしゃんこになった頭まで作ったって言うぜ。（ほとんど見えないけど）

ところが企画当初の『エイリアン3』では、四人はまがりなりにも元気でいらっしゃいました。リプリーがずっと昏睡状態だったり、ニュートが地球の伯父さん伯母さんの家に帰っちゃったりするけど、とにかく生きてる。かのサイバーパンク作家、『ニューロマンサー』で一世を風靡したウィリアム・ギブスンの書いた一番最初の『エイリアン3』脚本には、さらにUPPなんていうCCCP（ソ連ですよもちろん）まがいの組織が絡んでくる。上半身のまま一度はこの組織に拉致されたビショップなんか、トータルスキャンされて戻ってくると「私はスパイとして再プログラムされているのかも知れない」なんてあぶないこと言っとるくせに、クライマックスではしっかり活躍してくれる。女王エイリアンの顎にパルスライフル噛ませて頭を吹き飛ばし、「アンドロイドはハズさない」などとのたもう。（実はギブスンがそう書いてるだけなんだけど）新しい登場人物は次から次へと死んじゃうしリプリーは眠ったまんまだからヒックスが大活躍。おまけに最後は、ヒックスがエイリアン殲滅隊長としてさらに大活躍しそうな『4』の物語を匂わせて終わるんだからたまらない。マイケル・ビーンのファンが狂喜しそうな話だけど、小説家の脚本はやっぱり脚本ではなくて小説でした――というオチ。結局生き残ったギブスンのアイディアは、囚人の頭に彫られたバーコード刺青のみ。残念と言うべきかおめでとうと言うべきか。

ならば今度は脚本のプロに頼もうということで登場するのが、知る人ぞ知るエリック・レッドさん。ルトガー・ハウアーの静かな狂演が光る「ヒッチャー」の脚本を書いて有名になった人。最近は監督もしていて『ジャッカー』とか、『ボディ・パーツ』とかの作品がある。レッドさんの脚本は最初からキレていて、リプリーを含む四人は助かるどころか死体すら写らない。スラコ号に突入した救助隊の若き隊長サム・スミスが発見したのは、リプリーの血まみれのネームプレートのみ――ときたもんだ。この後スペースコロニー（『機動戦士ガンダム』のあれね）を舞台にもっと凄いことになるレッドさんのこの話、なぜか各方面にことごとく不評だったそうだけど、少なくともシガーニー・ウィーバーさんが気に入らなくても当たり前ではあります。

それはさておき、この話の何がどう凄くなるのかというと、レッドさんはこれを西部劇にしてしまうのであります。コロニーは農業用のもので、二重太陽のぎらつく下は



まだ映画を御覧になっていない方はお読みにならないで下さい。

一面の小麦色。陽炎の立ち昇る畑の果てに、黒い染みのようなものがぽつりぽつりと現れる。やがてそれは黒い帯となって地平線(そんなものがあるのかしら)を埋め尽くす。これもちろんエイリアンの大群。全滅した救助隊の中でただひとり生き残ったサムは、半身サイボーグと化した身体でひと言つぶやく。
「『真昼の決闘(ハイ・ヌーン)』だ！」————(ひえ〜)

レッドさんはエイリアンの生態にも容赦なく鞭を振るって、犬や猫はもちろん、牛・馬・鶏・豚にいたるまで家畜を全部エイリアンにしてしまう。あげくの果ては、ジェット機みたいにビュンビュン飛び回る蚊のエイリアンまで登場する。犬から生まれる『エイリアン3』の原点はここにあったと見て間違いないでしょう。現に最終的に犬と決まる直前まで、新種エイリアンの母胎は牛の設定で、撮影までされていたのですから。しかしレッドさんはちょっと無茶をしすぎました。なんでもかんでも取り込んでしまう〝物体X〟みたいなレッド・エイリアンは、ついに金属のような無機物まで消化吸収して巨大な〝人喰いアメーバ〟に膨れ上がり、コロニーを呑み込んでしまう。これじゃほとんど怪獣映画です。レッドさんの脚本は、これはこれでかなりエキサイトするんだけど、やっぱり無茶は無茶。これまた残念でした。

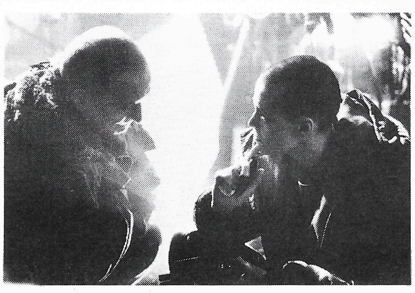
続いて登場するのは、中世ヨーロッパに妙なこだわりを持つニュージーランド出身の監督ヴィンセント・ウォードさん。どんなこだわりかはレンタルショップで『ウイザード』というビデオを探せばわかります。スキンヘッド・リプリーの生みの親は現監督デイヴィッド・フィンチャーだとウィーバーも言ってるけど、『エイリアン3』のそこかしこに残っている変な宗教色は、実はこの人に責任があります。ウォードさんの脚本はいきなり修道院に始まり、僧たちが星空を眺めているとおもむろに流れ星が落ちてくる。これがリプリーの乗ったEEVで、リプリー以外の三人が死んでしまうのも、リプリーの体内に女王の幼虫がいるのもリプリーの理解者が医者なのも、クライマックスが工場を舞台にしている(間際にガラスから鉛に変更された)のも、すべてはこの脚本から。修道院の正体は人工惑星〝アルケオン〟で、僧たちの正体は地球を追放されたアンチ・テクノロジーの異端派集団だった———『エイリアン3』に重火器が登場しないのは、この辺に端を発します。彼らは本当に中世世界の暮らししか知らない住人で、地球を追放された背景や〝アルケオン〟の秘密、謎の会社＝〝ヴェイランド湯谷〟が相変わらず関係するあたりなど興味津々のバック・ストーリーが山ほどあるのですが、すべては夢のまた夢。省きましょう。中世の世界観を反映して、丸い星が三層構造になっていたり、唯一テクノロジーの存在するはずの〝神の部屋〟＝大気循環システムにあるのが巨大な風車だったりと、ウォードさんのこだわり中世はとどまるところを知りません。僧たちにエイリアンの犠牲者が出始めると、原因はこの女にあるといって魔女裁判まで始まってもう大変。チェストバスターに加えてヘッドバスターが出るは、擬態機能を持つエイリアンは麦穂になったり木目になったりガラスになったりして、海に出ればジョーズ・エイリアンが泳いでいるというこの世界。ラストは聖女になり損ねたリプリーが、僧医ジョンに助けられ、またも宇宙に逃れてしまう。

ウィーバーが〝またか〟と嘆息した理由も、自分の分身リプリーを葬る決意をしたのも、ある意味では当然と言えましょう。結果的にそのベースとなったのが、このウォード脚本というわけです。ウィーバーは延び延びになっていた出演契約と引き換えに、製作者たちが脚本を書くならば、という条件を加えたのでした。本当にご愁傷様であります。

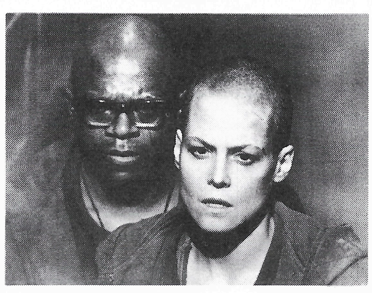
一時は、あの異星人遺跡のある星—LV—426を舞台にまったく別の『エイリアン３』を作っておいて、しかるのちに生還したリプリーが再びLV—426で活躍する『エイリアン4』を作るという『バック・トゥ・ザ・フューチャー』式続編計画もあった『エイリアン3』は、かくしてリプリーの墓標と化したのであります。

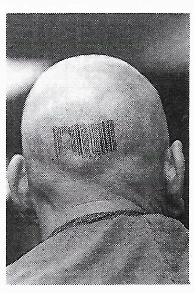
つい先日、アメリカではFOXによる『エイリアン4』の製作が正式に発表されたが、いったいどうなるのであろうか。一部の右翼ファンによれば、それはアメリカで人気を博しているコミック・シリーズ『エイリアンVSプレデター』を原作としたもので、『エイリアン4』はその実『プレデター3』となるのだと言う。そりゃ『プレデター2』には確かにエイリアンの頭蓋骨が写ってはいたけど、ほんまかいな。でももし本当にそんなことになったら、たまんないな。わくわく。ごめんねリプリーさん。











Sigourney Weaver Interview

……………………………映画御鑑賞のあとにお読み下さい。

シガーニーが、リプリー3部作の
魅力を語る。

取材と構成◉鷲津義明――〈わしづ よしあき〉

　強靱な体と精神力、そして知性あふれる思考と行動を取る戦士リプリー役を演じて、映画史上最強の女性という印象を与えるシガーニー・ウィーバー。彼女が『エイリアン３』のプロモートのため、７月に来日した。実際の彼女は美しいドレスを着こなし、そこにはダークな世界で活躍する女戦士の面影はない。シガーニーが自信を持って贈る、『エイリアン３』とシリーズへの思いを語った。

　まず彼女は、出世作となったシリーズ全体をどう感じているのだろう。

「私は３作に出演できたことを誇りに思っているわ。それぞれ非常に個性があって、決して類似していない。だけど、ダークで荒廃した世界の中に美しい共通点があるの。それは人間同士でいつも争っているけど、最終的に協力しあうという精神よ」

　でも多くの演技者たちは、同じキャラクターを演じることは、イメージの固定化になると考えている。だが彼女は違っていた。男性社会や権力社会の中で苦しむ、リプリーの精神や考え方の変化に興味を覚えている。

「１では非常に若い士官で、規則を重んじ、体制側で生きているの。しかし事件を通して、次第に幻滅を感じはじめ、ラストでは知性より、動物的なサバイバル本能に目覚めるの。２では１の延長線上で、社会からハミ出た反逆者となり、少女ニュートを見つけて、母性に目覚めるわ。クライマックスの対決は、サムライのイメージを頭に描いて演じたつもりよ。３はとても感動的に描いていて、私は好き。リプリーは、全てを失って無の状態となり、非常に孤独で、生きたいんだけど、もう生きる望みがないという矛盾の中で苦しむの」

　特に３のリプリーの描き方が、シガーニーは一番ユニークだと感じている。

「流刑惑星の男性社会の中で、唯一人の女性リプリーが、エイリアンとして存在しているのが面白い。そして彼女は女人禁制の中で、女らしさに目覚めていくの。皮肉にもラストで、エイリアンの母親になってしまうのよ」

　だが彼女にとって、３度もリプリー役を演じることは、ある決意をしなければならなかった。それは逆に、彼女がリプリー役をそれだけ愛していた表われなのかもしれない。

「最初、３作目にリプリーの出番はなく、４作目にリプリーが復帰する予定だったの。しかし３で主演することになり、そこで二つの条件を提示したわ。まず銃を絶対使わないこと。２でキャメロン監督は、銃を使ってあらゆることを見せてしまったから、銃を使えば焼き直しになってしまうのよ。それに、本当の人間の勇気とは、武器を持たない、素手で戦うことで発揮できるものなの。もう一つは、リプリーが死ぬことと、その場面が美しいこと。彼女が４、５…と続いて出たら滑稽でしょ。毎回エイリアンという、悪運につきまとわれるなんて不思議だし、私には耐えられないわ。だからリプリーに人類を救うため、ある選択をさせて、永遠の平和と名誉を維持させたいの。私とリプリーは友だちみたいな関係だから、悲しかったけど、３のラストは正しかったと思うわ……でもある意味では、勝利の物語なのよ」

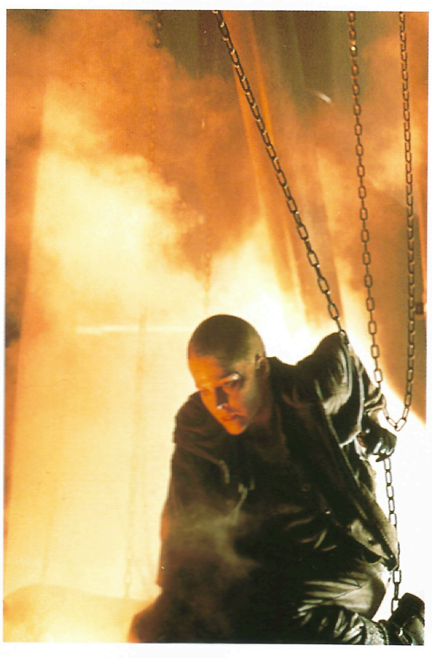
　シガーニーは、リプリー最期の作品のために自ら製作総指揮を努めたとも考えられるし、またリプリーとの決別のためにスキンヘッドになったとも考えられる。だが本心は、リプリーというキャラクターを第一に考えたかったかったのである。

「フォックス映画へ行った時、監督のフィンチャーから頭を剃るのはどうかと尋ねられ、驚いたわ。だけどいいアイデアだと思ったの。女が坊主になるというのは、非常に攻撃的に見えるのと、傷つきやすいという両面があるわ。精神的に裸になって、さらけだすという感じが、この物語にちょうど合っていたのよ」

　今回リプリーが、スキンヘッドになったのには、前２作と違った作品を作ろうという監督の意図があったようだ。２で登場したニュートの存在が、母娘の関係を印象づけていたが、３でニュートを殺してしまったことで、その姿勢は更に明確になった。だがシガーニーにとって、重要なキャラクター、ニュートを殺すことに抵抗はなかったのだろうか。

「プロデューサーがサディスティックなのよ（笑）。リプリー編３部作の最後になるから、彼女には一人で立ち上がって欲しかったの。だから全てを失った一人の女、一人の人間として、対決する図式が欲しかった……だから恋仲になった医師クレメンスも、作品の半ばでエイリアンの犠牲にしてしまったのよ」

　新しい『エイリアン』作品を製作しようとする監督と、シガーニーの考えは一致し、協力関係を結んだ。彼女は初監督フィンチャーに不安はなかったようだ。







「彼はすごい自身家なのよ。1の大ファンなので、シュールリアルな雰囲気を求めていたの。2はあまりにもキャメロン色が強かったから、オリジナルに戻したかったのね。それと世紀末的な雰囲気を描きたかったと思うの。世紀末の社会というのは矛盾があるわ。今の社会を見れば分かるように、怒りと希望が共存し、そこには大変な苦しみと無邪気さがあるのよ。美術的な面でも美しいけど、とても暗く、醜く、汚いものが共存する……世紀末の雰囲気を感じさせるわね」

だが若き監督に、シガーニーが一度だけ激怒した。このエピソードを聞くと、彼女も普通の女性と言うことを認識させてくれる。

「悲惨な思い出よ。私が医務室でシーツを掛けて裸で寝ている場面なの。監督が顔の上に虫を落とすよって言ったの。そしたらカップに入った小さな虫を顔にバッとかけられたの。作り物だと思ったのに生きているのよ。もう耳や鼻、口から入ってしまったわ。私は裸だから起きることもできなかったの。監督は男だから、女性にとって虫がどれほど気持ち悪いものなのか、理解できなかったのよ。ホント頭にきたわ。でも結局、この場面はカットされてしまったけど……残念ね」

10年以上もエイリアンと密接な関係を築いたリプリーが、劇中で〝長いつきあいよ。他人とは思えないわ〞とジョークをかましてくれる。シガーニー自身も、実はエイリアンに親しみを持っていたのだ!?

「あのシーンは私が書いたの。彼女は一生エイリアンから逃げる人生だったでしょ。皮肉を込めたのよ。私自身は1作目のエイリアンが好き。初恋でしたからね(笑)」

恐るべきエイリアンだが、作品によって描き方が微妙に違っているのはなぜか?彼女はこう考えている。

「1はとても知性的でしたが、2では群れをなし、あまり知性が感じられなかったわ。3ではまさにキリング・マシーンよ。エイリアンに統一性が感じられないのは、むしろ監督のイメージを優先し、活かした結果ね。もし今後もシリーズが継続するとしたら、エイリアン自体が、なぜ人間をしきりに襲うのか、といった生態を探ることが考えられるわ」

リプリー編の完結作とはいえ、多くの方が『エイリアン3』のラストに愕然とし、『ターミネーター2』のラストを想起するだろう。だが彼女は、必然性が全く違うと言う。

「シュワルツェネッガーはロボットでしょ。撮影中に『ターミネーター2』のラストを知ったけど、リプリーの場合は、人類を救うために、あの方法以外なかったの。確かに設定は似ているけど、物語として絶対必要だったわ。1からの流れを見ても、結末はこれしか考えられないもの。カンパニー側のビショップのセリフを聞いても、エイリアンを生物兵器として使うのは明らかなのよ」

全米公開において少々批判的な意見が見られたのは、「2のヘヴィなアクションを観客が求めていたせいなのよ」とシガーニーは言う。でも彼女と監督は、アクション映画には絶対したくなかったのである。

「確かに配給会社側はアクションを前面に押しているけど、本音を言えば精神的に厚味があり、哲学的でクリエイターの気持ちがこもっていると思っているわ」

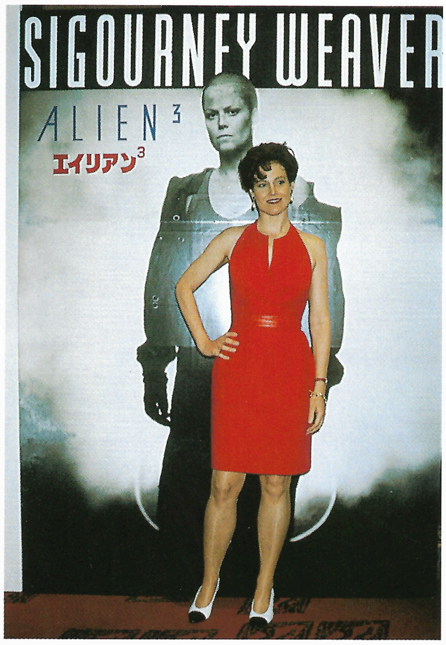
アメリカ観客には、少しメンタルな部分が強すぎたかもしれない。リプリーが頭髪を剃るのは、シラミが蔓延しているためであったが、その裏には、愛する者を失った悲惨な過去を忘れたいがため、仏門に入るような心境で頭を丸めたと感じ取れる。それを考えてラストを見れば納得がいく。自己犠牲の精神は、仏教や武士道精神が根本にある日本人の方が、より理解できるハズだと思う。

最後にシガーニーは、3部作が各時代を反映していることに気づくと語ってくれた。

「70年代末に出た1は革新的な『2001年宇宙の旅』の清潔感とは違った現実感を、2は80年代のテーマである銃とファミリー、3は90年代の未来への恐怖と希望、人間同士の協力、それと魂(霊魂)に惹かれる世紀末的な宗教感を感じさせるわ。『エイリアン3』は今の時代じゃないと、できない映画ね」

でも本当にリプリーは復活しないのだろうか?ファンにとって一番気になるところだが。

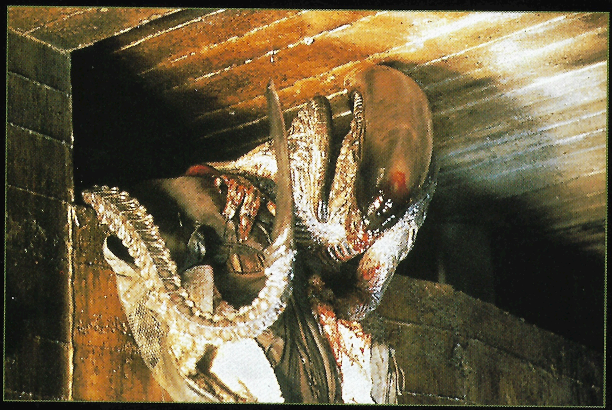
「プロデューサーはサディスティックですからね。SFだから、何でもアリって考えているみたいよ。爪の先片から再生するかもしれない(笑)、でも私は終わりにしたいわ」

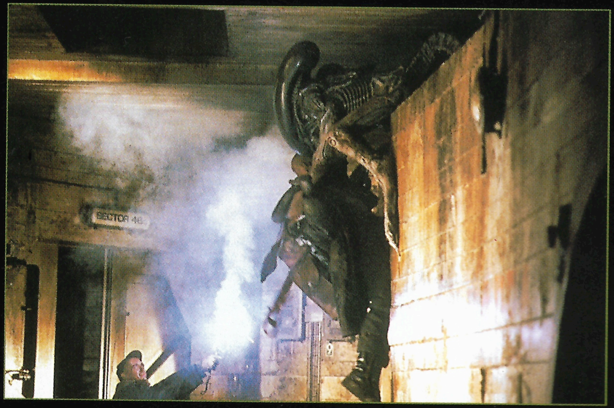


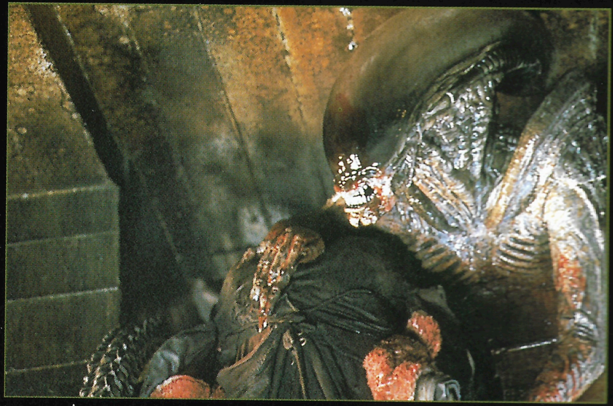
来日したシガーニー・ウィーバー、1992年7月。

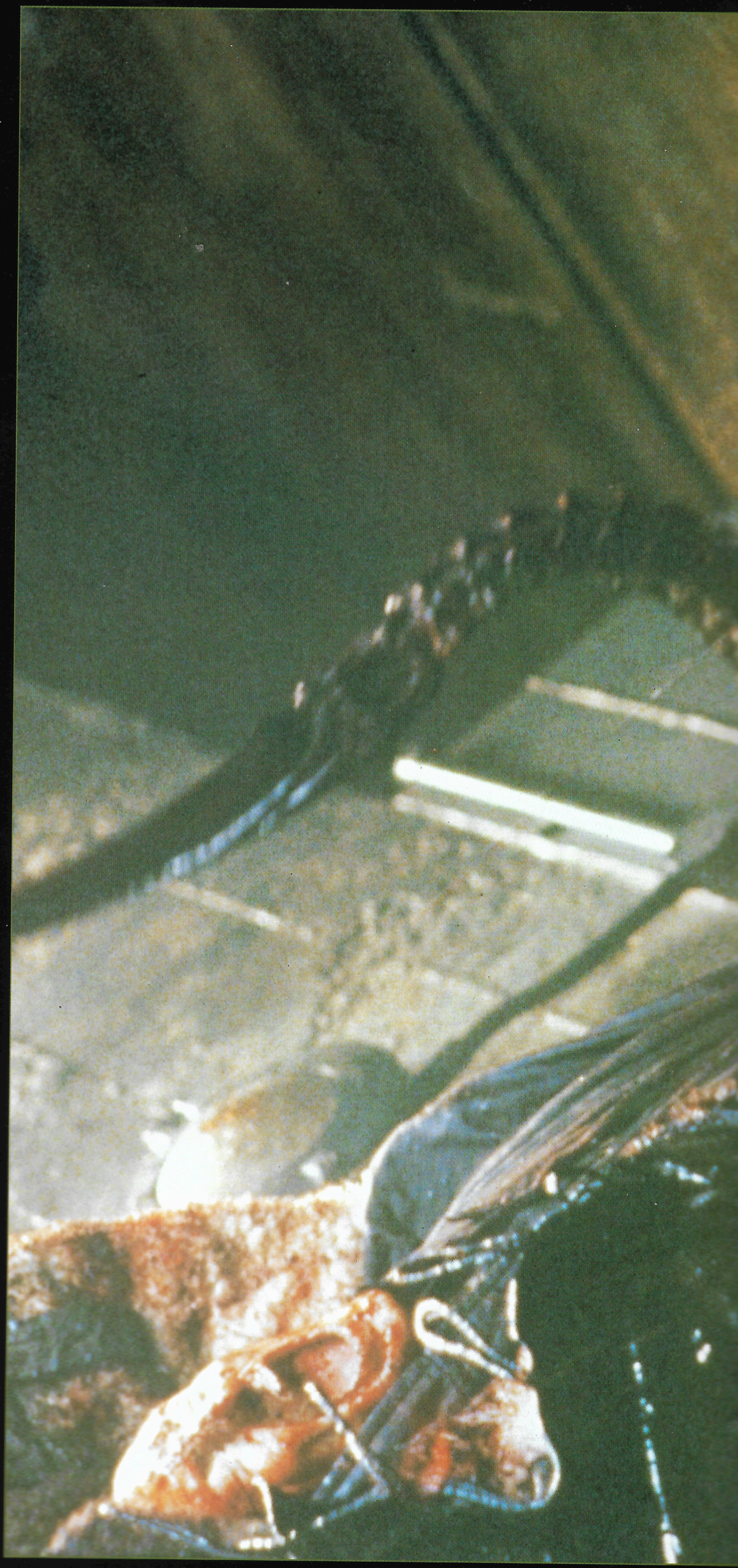







SECTOR





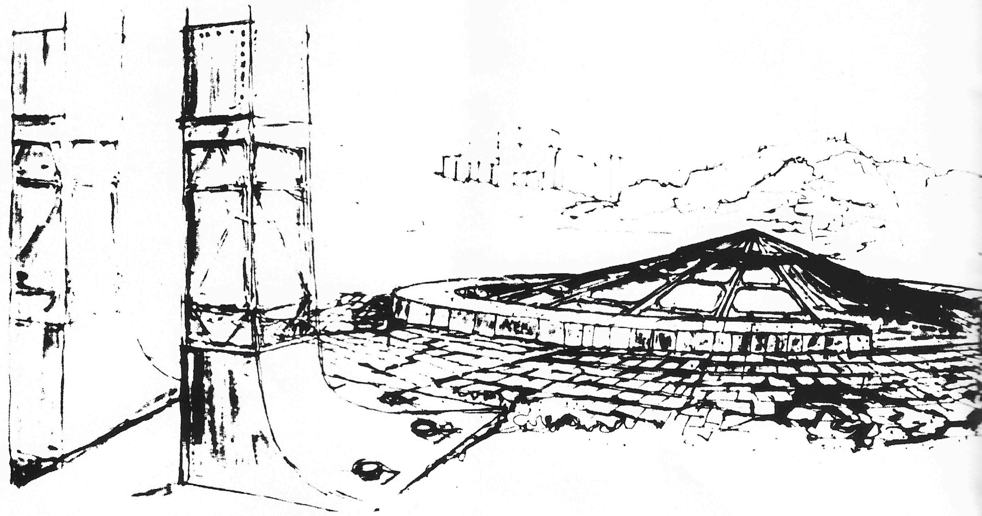


SIGOURNEY WEAVER

ALIEN³







壮大なセットについて

「スター・ウォーズ」でオスカー受賞の美術監督ノーマン・レイノルズのセットが今度も見ものだ。特に「エイリアン」シリーズは、それぞれ独特の映画美術が芸術的にも傑出しているが、今回はレイノルズの呼ぶ〝リアリズムの匂い〞が、独自の世界を創り出している。最新兵器やハイテク機材はあまり登場せず、これまでのＳＦ映画に多く見られた白く無機質なイメージはない。白が使われる部分は、ごく１部で、惑星フィオリーナ161の地底にあるウェイランドーユタニ労働矯正施設の世界は、灰色と黒と茶色が強烈な印象を残す。パインウッド・スタジオの７つの屋内スタジオに、鉛工場と巨大な溶鉱炉と、どこまでも続く細く曲りくねった通路と換気立坑からなる鉱石精錬所や、非常警報装置、医務室、食堂、集会場、モルグ、コーン・オブ・サイレンス、囚人と勤務官の宿所が完備されているビクトリア風の刑務所などの複雑なセットが組まれた。また不気味な惑星の地表は、パインウッドの屋外撮影所に数エイカーに渡り作られた。

これらのセットの中でも最も規模が大きく、圧巻だったのは、ジェームズ・ボンド・シリーズで何度も使われたことから007ステージと呼ばれている世界最大の屋内スタジオに組まれた鉛工場と溶鉱炉のセットだ。この巨大で極めて複雑なセットは、組むだけでも12週間かかり、すべて実際に使用可能なものばかりで、エイリアンとの死闘でとても重要な役割を果たしている。巨大セットは、あまりにも規模が大きく複雑だったので、監督のデイビッド・フィンチャーがカメラの位置や映画の驚くべきフィナーレを考え出し易いように、縮小模型が作られた。

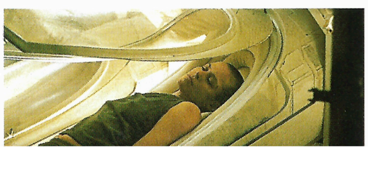
ノーマン・レイノルズは語る

「最近は、いろいろな事を考慮しながらセットのデザインや組み立てを考えなければならない。ウィリアム・キャメロン・メンジーズなど過去の偉大なデザイナー達は、ひとつやふたつのアングルに必要なものをデザインすればよかった。昔のそういった製作のスタイルがずいぶん変わってしまい、今はカメラが自由自在に動く流動的な仕事なので、今日同じような事をするには、よっぽどの勇気が必要だ。でも今回、経済的な効果を出すため、特定のシーンでは、ガラスショットが使用された。カメラを固定させ、廊下の端にあるドアの前にガラスを立て、すべての独房をこのガラスに描いて撮影した。

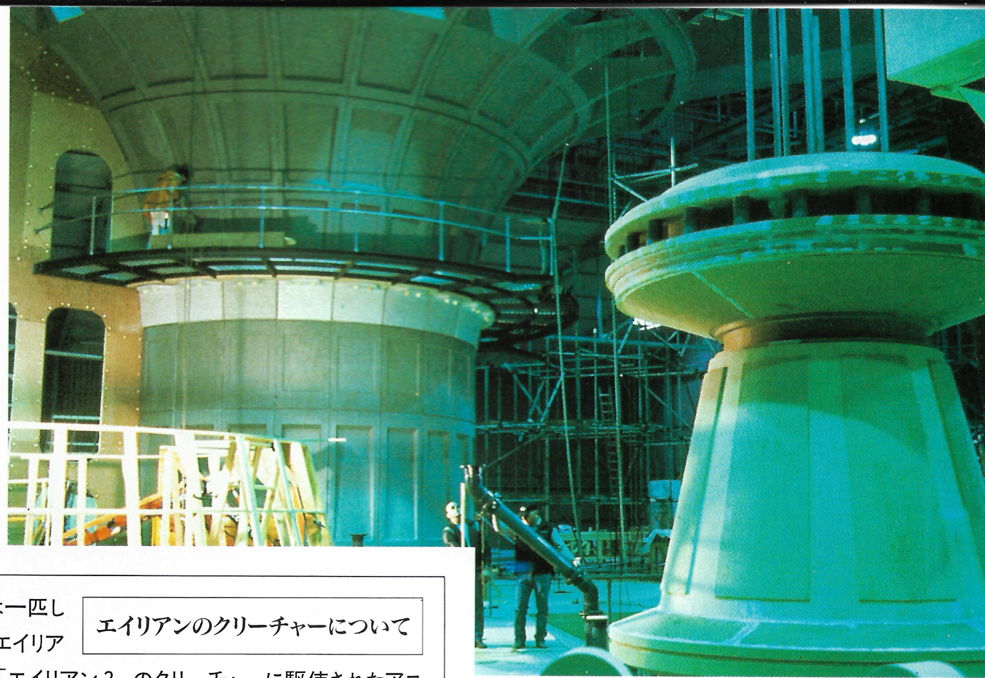
モルグのセットは、実際に撮影できるアングルが限られていた。特定のアングルからはインパクトがあったが、あとは使えなかった。もしすべてのアングルが使用可能なモルグの全形を建てるとしたら、屋内スタジオを全部使う事になってしまい、予算的には可能だったが限界もあり限られたワクの中で、デイビッドはそれらを使って撮影した。映画は、惑星の地表のシーンから始まるが、当初このシーンはイギリスの北東にあるニューキャッスルの小さな場所で撮影する予定だった。しかし、それにはとても費用がかかったので、惑星の地表をスタジオの屋外セットに作る事になった。広い範囲に作られたセットを、プロセス・ショットとマット・ペインティングと組み合わせて、とてもうまくいったよ」











エイリアンのクリーチャーについて

「１作目の「エイリアン」同様、今回もエイリアンは一匹しか登場しないが、それがかえって、何匹も登場した「エイリアン２」とは別の課題を僕達に投げかける事となった。「エイリアン３」のクリーチャーに駆使されたアニマトロニクス、パペット操作、ケーブルコントロールの頭や手足、そしてライブアクションは、前２作をはるかに上回るものとなった。僕達は動きの繊細さや作ったクリーチャーの質にもっとも重点を置いた。そして、前作よりシアトリカルでおおげさな部分を多少抑え、H. R. ギイガーのルーツに戻り、これまでのクリーチャーには見られなかった彼の絵にある要素を引き出そうと努力した。

だからこそ、２作目でははずしてしまった、エイリアンの頭の上の透明で滑らかなドームを今回再び付けている。あれには、不思議な雰囲気があるからね。男根と見ようが、動物と見ようが、どんな風に見ても自由だが、僕達が取り戻したかった姿がうまく出ている。

僕達は最終のスーツの色付けの時もギイガーのオリジナル・デザインを参考にした。ギイガー・ルックを目指し、彼の平面のアート・ワークに近付いたと思っている。彼の絵は非常に繊細だからね。

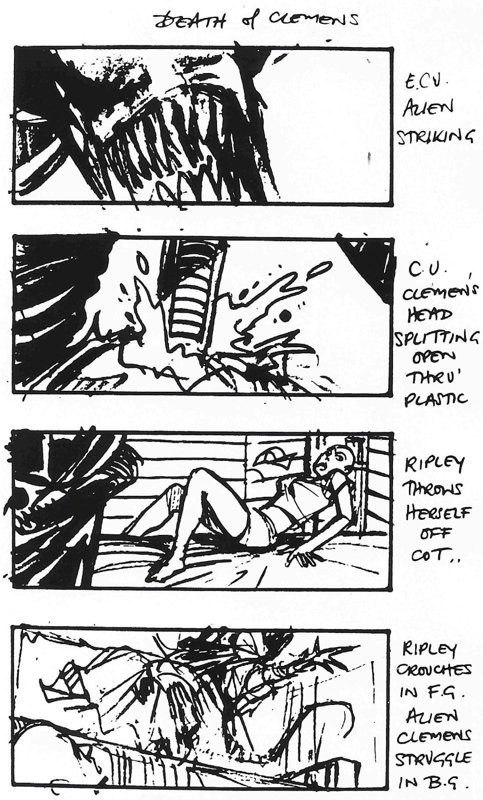
今回のエイリアン・イフェクトは、これまで以上にエイリアンの発育過程を多く描いており、それも僕達にとって大きなチャレンジとなった。エイリアンは一匹だが、その発育のさまざまな過程をすべてギイガーのオリジナルのデザインをもとに製作した。ギイガーは、スケッチや模型を作っており、彼と僕達のアイデアを組み合わせて、エイリアンのライフサイクルをビジュアル化した。

脱皮するたびに急激に成長するエイリアンの幼虫のほかに、フェイスハッガーも登場する。１作目よりグロテスクで恐ろしいものとなっている。エイリアン・クィーンの胎児には、クィーンのドームの形を与えるために頭にそれに似たものを付けてみた。デイビッド・フィンチャーは、卵嚢もリクエストしてきたよ。

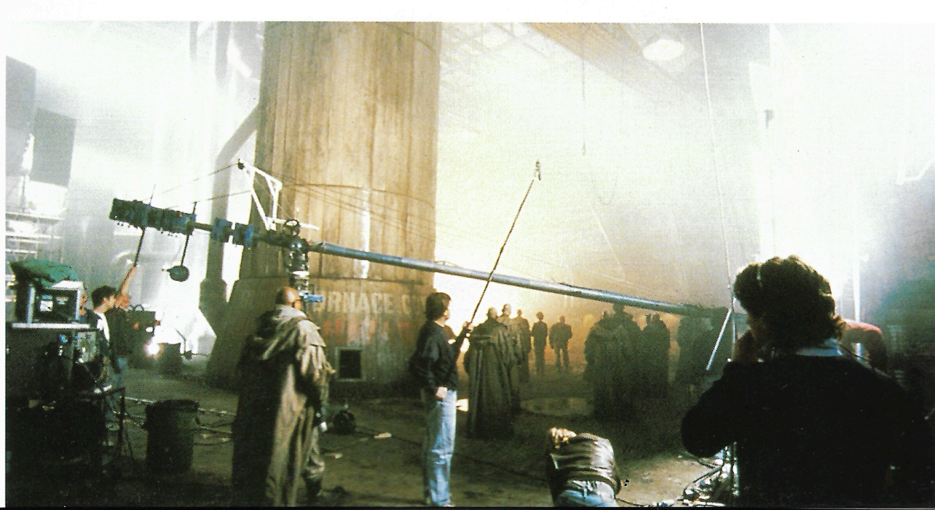
子鹿のようなエイリアンの誕生シーンで、フィンチャーは、グロテスクだがどことなく弱々しいものを求めていた。彼は、生まれたばかりのエイリアンをバンビと呼んでいたぐらいさ。このクリーチャーが、人間を襲う恐ろしい怪物になるのはよく分かっているのに、生まれたばかりの時は、弱々しくて、足元もフラフラしている。そこが、怖いところさ。実に気持ち悪いクリーチャーだが、動物の赤ちゃんのようで、なんとなく心を惹かれてしまうんだよ」

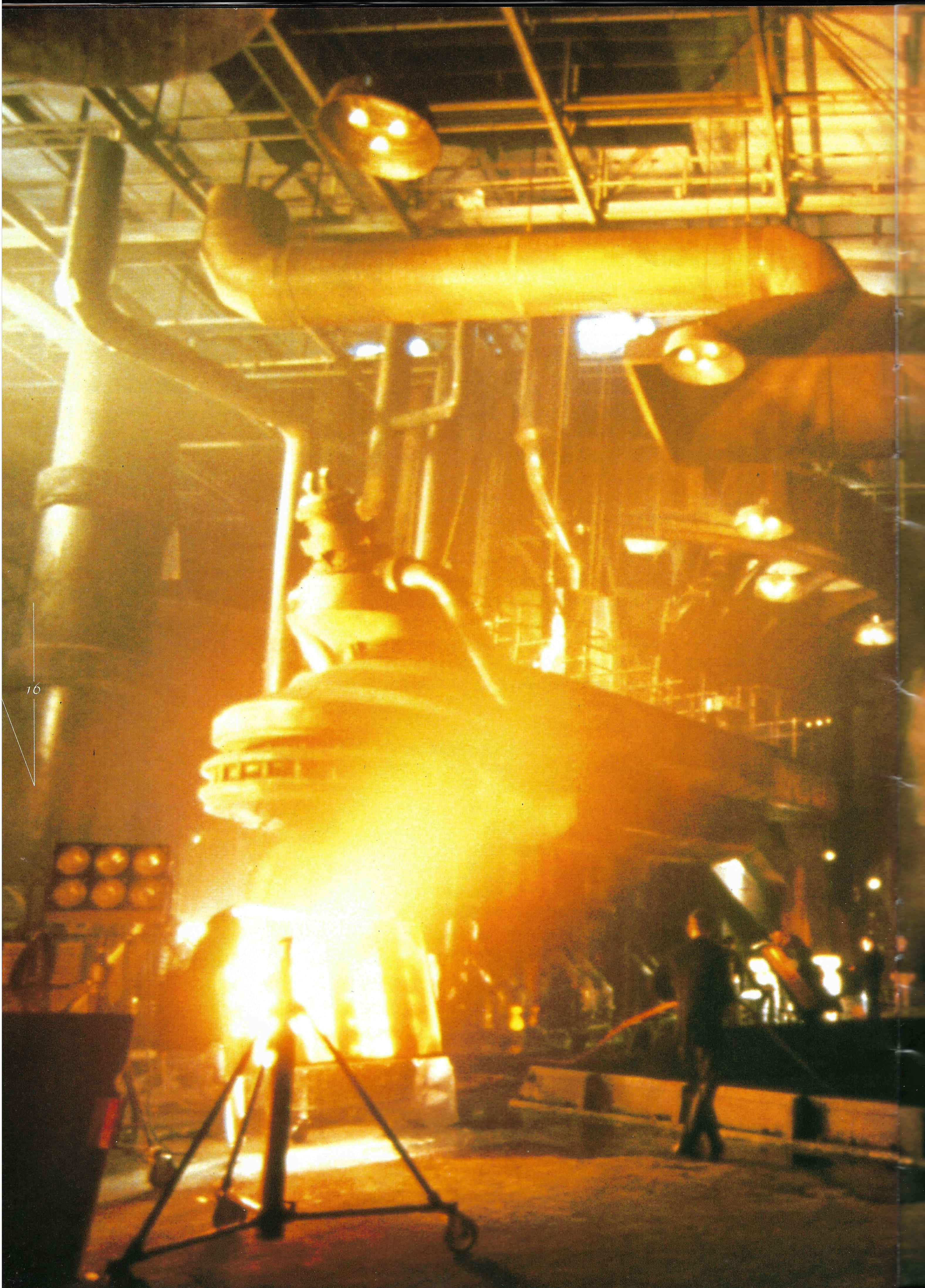
27才の監督への讃辞

リプリーと〝フィオリーナ161〟の囚人達とのストーリーを描くには、技術的な才能以上のものが要求され、出演者達は一様に若い監督の手腕を称えている。「デイビッド・フィンチャーは、自分が何をやっているのか完全に把握しているんだ」と語るのはチャールズ・ダンス。「彼は天才で、彼が言うなら僕はロンドン・ブリッジからだって飛び降りるよ。ビジュアルな部分に強い監督には、俳優とうまくつき合えないものが多いが、デイビッドは例外だった。それに彼はすごい自信を持っていて、それが一緒に働いているまわりの人間をも感化させたんだ。彼は生まれながらのフィルムメイカーさ」



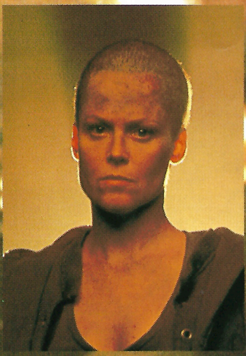






16

シガーニー・ウィーバー□
SIGOURNEY WEAVER



89年の「ゴーストバスターズ２」の出演後、３年間「エイリアン３」の役作りと撮影のため、ほかの作品をことわり全力投球の熱演で、当り役リプリーがまたまたセンセーショナルな話題を呼んでいる。スキン・ヘッドの彼女も強烈だが、極秘のショッキングな役柄がさらにファンを圧倒する。

49年10月８日、ニューヨーク生まれ。父は50年代にNBCの社長を務めたシルベスター・Ｊ・ウィーバー、母は女優だったエリザベス・イングリス。スタンフォード大学とイェール大学で演劇を専攻。アクターズ・ワーク・ショップで演劇を学び75年イングリッド・バーグマンの代役をやった『コンスタント・ワイフ』で舞台デビュー。77年「アニー・ホール」の端役で映画デビューし79年の「エイリアン」でスターに。

「目撃者」「危険な年」「世紀の取り引き」Ⓥ「ゴーストバスターズ」「大発掘」Ⓥ「エイリアン２」「ハーフムーン・ストリート」に主演。88年はアカデミー主演女優賞候補の「愛は霧のかなたに」と、もう１本の出演作でこちらは助演賞候補の「ワーキング・ガール」で名演技をみせたが、残念ながら受賞は逃した。しかしゴールデン・グローブ賞では主演と助演賞のダブル受賞を果たす。「エイリアン２」でもアカデミー主演賞候補だった。

コメディもシリアス・ドラマもこなし、日本では新日鉄のＣＭで人気を集めた。

舞台演出家のジム・トンプソンと84年に結婚し、１児のママになった。

トンプソンの演出で「エイリアン２」の後に『ベニスの商人』のポルティアを演じ、オフ・ブロードウェイの"Das Lusitania Songspil"では、クリストファー・デュラングと共同で脚本を書き才女としても知られる。これはミュージカルで彼女の出演で上演された。

テレビはPBSのシリーズ"The Best Families"と"Somerset"に出演している。

「エイリアン３」では共同製作者としてクレジットされ、ニューヨークに製作会社ゴート・ケイ・プロダクションを設立。初めての映画"Then She Found Me"を今年中に撮影開始する予定。エリノア・リップマンの処女小説で、このほか３本の企画が進行中だ。今秋公開予定の『コロンブス／1492』にイザベラ女王の役で出演し、「エイリアン」第１作のリドリー・スコット監督とのコンビを復活している。

□監督/デイビッド・フィンチャー
DAVID FINCHER



「エイリアン」第１作のリドリー・スコット監督も、これが「デュエリスト」に次ぐ２作目だった。

「エイリアン２」のジェームズ・キャメロン監督も「ターミネーター」に次ぐ３作目で、どちらも驚異的な演出力で、観るものを圧倒し、このシリーズからは強力な新人が出現した。

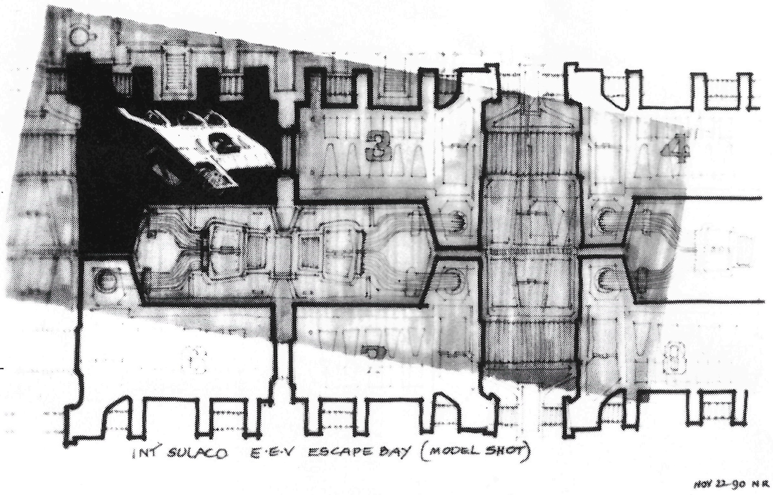
フィンチャー監督は、過去数年間、多くの革新的でクリエイティブなミュージック・ビデオを広範囲に演出してきた秀才だった。マドンナ("Vogue" "Oh Father")、ジョージ・マイケル("Freedom '90")、ビリー・アイドル("L.A. Woman" "Cradle of Love")、ポーラ・アブドゥール("Straight Up" "It's Just the Way You Love Me" "Cold Hearted" "Forever Your Girl")、スティーブ・ウィンウッド("Roll With It")、エアロスミス("Janie's Got a Gun")、ドン・ヘンリー("The End of the Innocence")などが代表作。またテレビＣＭフィルムでも大企業のコマーシャルを数多く手掛けている。ペプシ、レブロン、リーバイスなどが主なもので多くの賞を受けている。

「エイリアン３」の監督に契約された時は27歳の若さで、劇場映画はこれが初めてだった。アメリカ映画史上でも5000万ドル予算の超大作を、まったくの新人が20代の若さで任された例はなかった。

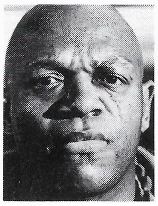
それだけ危惧するムキもあったが、28歳で「ジョーズ」を大ヒットさせたスピルバーグ以来の若い天才監督の誕生と、絶賛を集めている。

父は"ライフ誌"の記者だった。高校時代からフィンチャーは地方のテレビ局でニュース・ショーの仕事をし、19歳の時、ジョージ・ルーカスのILMで「スター・ウォーズ／ジェダイの復讐」の仕事をしている。21歳の時からプロとしてビデオの製作を始めたが、４年間で50万ドルもかせぐトップ・クラスの売れっ子になった。

「エイリアン３」の撮影中は、ねばりにねばって、クライマックスの撮り直しを要求し早くも大物としてプロデューサーたちの注目を集めている。



キャスト・メモ



チャールズ・S ダットン
Charles S. Dutton

ディロンを演じる。

メリーランド州ボルチモア生まれ。83年にイェール大学を卒業。ブロードウェイの''Ma Rainey's Black Bottom''の舞台で絶賛を浴び賞を受賞。

映画は「ノー・マーシー／非情の愛」、ロバート・デ・ニーロ共演の「ジャックナイフ」をへて、「クロコダイル・ダンディー2」で注目された。

新作には「ミシシッピー・マサラ」、エディ・マーフィ共演''Distinguished Gentleman''がある。

シガーニーとは、イェール大学の同窓で、ドラマディスク賞、シアター・ワールド賞を受賞し舞台では『オセロ』『冬の夜ばなし』など古典劇でも名演を見せた。

テレビは、フォックスのシリーズ''Roc''に主演。「マイアミ・バイス」「女刑事キャグニー＆レイシー」などにゲスト出演している。



チャールズ・ダンス
Charles Dance

クレメンスを演じる。

46年プリマス生まれ。75年にロイヤル・シェークスピア・カンパニーに加わりニューヨーク、ロンドンをはじめイギリス各地を回る。

『エドワード7世』のデューク役でテレビ・デビュー。テレビに多く出ていたが、84年にメリル・ストリープの「プレンティ」でスクリーン・デビュー。「グッドモーニング・バビロン！」「パスカリの島」「白い炎の女」「ゴールデン・チャイルド」''McGuffin''などに出演。

イギリスのテレビ・ムービー大作''Jewel in the Crown''シャーリー・マクレーン共演''Out on a Linb''NBCのミニ・シリーズ「オペラ座の怪人」では主役の怪人を演じている。テレビ・ドラマ''Out of the Shadows'' ''First Born'' ''Goldeneye''などに出演。

舞台は『リチャード3世』『ヘンリー5世』などシェークスピア劇に定評ある名演を見せている。

新作映画は''China Moon''、ついで有名なカメラマンで冒険家のロバート・フラハティに扮して主演した''Kabloonak''をシベリアで撮影した。



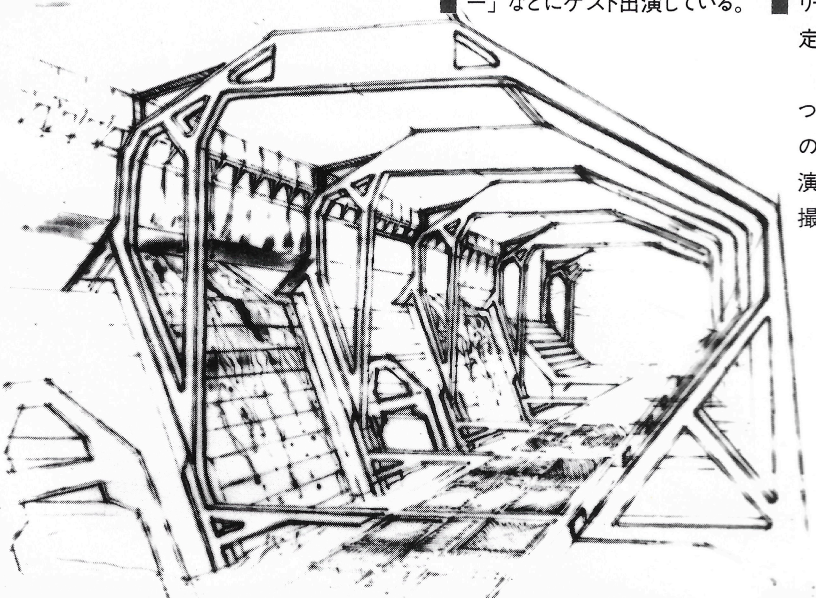
ポール・マクガン
Paul McGann

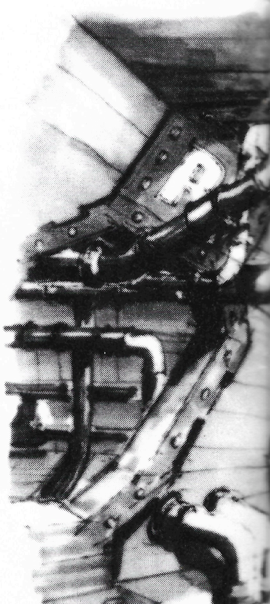
凶悪な殺人犯ゴリックを演じる。

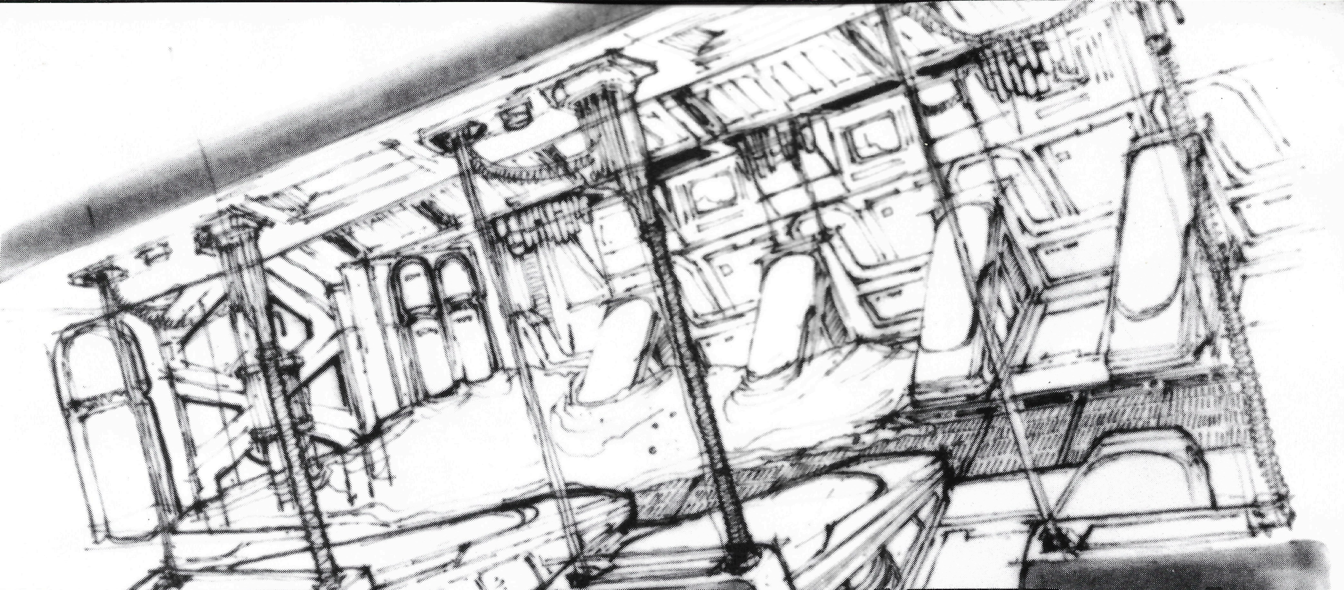
映画はブルース・ロビンソン監督の''Withnail & I''の主役でデビュー。ケン・ランセル監督「レインボウ」や、「身代わりの樹」「ディーラーズ」などに出演。

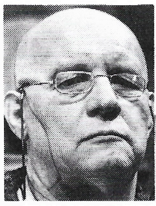
リバプール生まれで学校を出た後はリバプールの社会福祉課で働いた。俳優をめざして退職し、ロイヤル・アカデミー・オブ・ドラマチック・アーツで2年間、演技の勉強をし舞台に立つ。『ゴッドスペル』『かもめ』などが代表作。

テレビはBBCのヒット作''The Monocled in the Shallow End''などに主演。近作はBBCの''The Gospels'' ''Nice Town''の主役をつとめている。









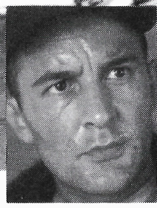
ブライアン・グローバー
Brian Glover

囚人たちの監督アンドリュース。

ヨークシャー生まれでレオン・エイリスの名前でレスラーとして世に出た。

68年、ケネス・ローチ監督の「少年と鷹」(日本ではテレビ放映)に出演。「ブラニガン」「オー！ラッキーマン」、85年"'McGuffin"ではチャールズ・ダンスと共演し性格俳優として活躍。「大列車強盗」"Quilp"「狼男アメリカン」テリー・ギリムア監督の「ジャバーウォッキー」などがあり、「KAFKA迷宮の悪夢」に出ている。

テレビ出演も多くシリーズ"Sounding Brass"は批評家からも高く評価され、脚本家としても成功している。



ラルフ・ブラウン
Ralph Brown

監督官の助手アーロンを演じる。

57年にケンブリッジ生まれ。当時、父は19才の学生だった。ロンドン・スクール・オブ・エコノミックスで法律を学び学位を修得。大学時代から演劇に熱中。

自作自演の劇をコミュニティ・センターで上演していたムービング・パーツという劇団に入ってプロとしてデビュー。ロイヤル・シェークスピア劇団の"Earwing" などに出演している。

映画は86年"Withnail & I"でデビュー。「ダイヤモンド・スカル」「スキャンダル」などに出演している。

テレビはチャンネル4の"The Real Doctor Snyde"で主役をやっている。



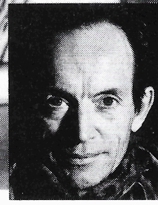
ダニー・ウェッブ
Danny Webb

悪役モースを演じる。

イギリスのアンドーバーに生まれた。6才の時に家族と共にオーストラリアに渡り帰英後、19才の時、ロイヤル・アカデミー・オブ・ドラマチック・アーツに入り卒業。"Serious Money"で主役を演じニューヨークでも上演され、『ハムレット』に主演。

映画は"The Unapproachable"でデビュー。「太陽の年」「ダウニング街の陰謀」(V)「ヘンリー5世」、20世紀フォックス版「ロビン・フッド」などに出演。

テレビ出演も多く、「名探偵ポワロ」などがあり、最近はジョージ・ルーカスの「ヤング・インディ・ジョーンズ」のピカソ役が有名。



ランス・ヘンリクセン
Lance Henriksen

Part 2 で衝撃的なアンドロイドのビショップを演じたランスの再登場。

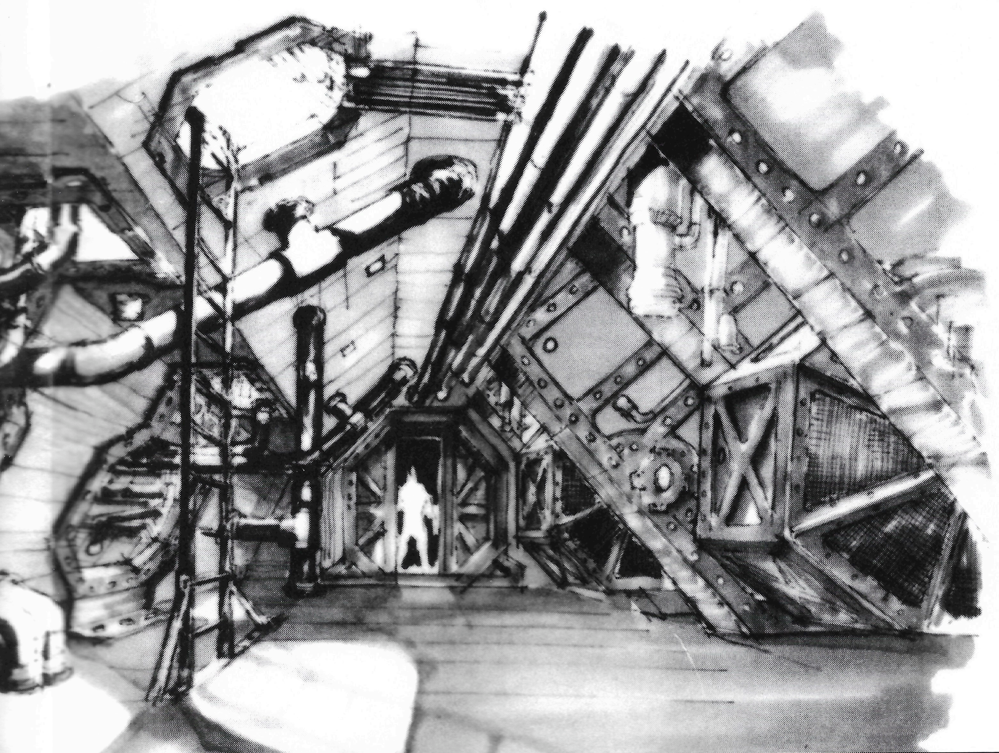
ニューヨークに生まれた。少年時代から放浪癖があり、スウェーデンの貨物船に乗ったり、バハマで帆船の水夫をしたこともある。

アクターズ・スタジオで学び、ボストン・オペラ座の舞台に立ち、アル・パチーノと出会い絶大な影響を受ける。「狼たちの午後」で映画デビュー。

出演作品には「オーメン2」「殺人魚フライングキラー」「デビルゾーン」「ライトスタッフ」「白と黒のナイフ」「ニア・ダーク／月夜の出来事」「ジョニー・ハンサム」「ストーン・コールド」や主演の「パンプキンヘッド」"Survival Quest"「恐怖の振子」等がある。

テレビはエミー賞受賞の"Dark End of the Street"に主演。HBOの"Tales from the Crypt"でウォルター・ヒル監督の"Cutting Cards"、ロバート・ゼメキス監督の"Yellow"の2話に主演。

映画の新作にはブルース・ロビンソン監督のスリラー"Jennifer Eight"に主演している。





製作●ゴードン・キャロル
Gordon Carroll

28年2月2日、メリーランド州ボルチモア生まれ。プリンストン大学卒業。テレビ・ライターから、49年にはトルーマン大統領の招きでペンタゴン入りし特務機関の仕事をした。その後、広告会社の重役をへて、セブン・アーツ社でプロデューサーになる。「女房の殺し方教えます」「暴力脱獄」「幸せはパリで」「ビリー・ザ・キッド／21才の生涯」を製作。

ウォルター・ヒルとは「エイリアン」第1作から共同製作にあたり、ヒル監督の「レッドブル」88も製作。83年のヒット作「ブルーサンダー」ロビン・ウィリアムス主演"The Best of Times"のプロデューサーである。

製作・脚本●デイビッド・ガイラー
David Giler

43年ニューヨーク生まれ。父が脚本家だった影響でテレビ「ギャラント・メン」「ナポレオン・ソロ」などのシナリオを書き、「マイラ」から映画に進出。「パララックス・ビュー」「おかしな泥棒／ディック＆ジェーン」監督を兼ねた"The Blackbild"（「マルタの鷹」のパロディ）のシナリオを書いた。「Mr.早射ちマン」Ⓥ「エイリアン」「エイリアン2」で共同プロデューサーとして活躍。ウォルター・ヒルとは彼の監督作"Southern Comfort"で製作と脚本を担当してコンビを組んでいる。「マネー・ピット」で脚本を書きスピルバーグと共同製作総指揮。「ランボー」82の脚本にも手を加えている。「のるかそるか」で製作、テレビ・シリーズ"Tales From the Crypt"の共同製作総指揮。今回は共同で脚本に参加。

製作・脚本●ウォルター・ヒル
Walter Hill

「48時間」などハードボイルドがうまい大監督だが、「エイリアン」シリーズでは共同プロデュースを担当し今回は脚本に参加。シナリオ・ライター出身で、「ゲッタウェイ」「マッキントッシュの男」などを書く。

42年カリフォルニア州ロングビーチ生まれ、ミシガン州立大学を卒業後、建設の仕事をしながらライターとして認められる。

75年に監督に進出した「ストリート・ファイター」の評価が高く、主な監督作には「ザ・ドライバー」「ウォリアーズ」」「ロング・ライダース」「ストリート・オブ・ファイヤー」「レッドブル」「ジョニー・ハンサム」「48時間PART2」などがある。

テレビ・シリーズ"Tales From the Crypt"では共同製作をし、シリーズ中もっとも多くのエピソードを監督している。

脚本●ラリー・ファーガソン
Larry Ferguson

ショーン・コネリーの「ハイランダー／悪魔の戦士」をはじめ、「プレシディオの男たち」「レッド・オクトーバーを追え／」とコネリー映画の脚本で才能を認められた。

大ヒット作「ビバリーヒルズ・コップ2」）ウォーレン・スカーレン共同）"Talent For the Game"と新進ライターとして頭角を現わしている。

製作総指揮●エズラ・スワードロウ
Ezra Swerdlow

ウディ・アレンのもとで修行。「スターダスト・メモリー」「カメレオンマン」「ブロードウェイのダニー・ローズ」でユニット・マネージャーをつとめた。

「ハンナとその姉妹」「ラジオ・デイズ」で製作補となり、メル・ブルックスの「スペースボール」の共同製作をへて「逆転人生」で製作総指揮をつとめた。「乙女座殺人事件」では製作、「もうひとつのラブストーリー」で共同製作をし、ニューヨークを拠点にプロデューサーのデボラ・シンドラーと組んでいる。

ストーリー●ビンセント・ウォード
Vincent Ward

56年、ニュージーランドのワイラパパに生まれた。カンタベリー大学で絵画と彫刻を学ぶが映画への関心が強くなり、78年に短篇"A State Of Siege"を監督。

80年に初の長篇"In Spring One Plants Alone"を発表し渡米。ニューヨークで書いたシナリオで「ビジル」を母国で発表。84年カンヌ映画祭に初めてニュージーランド映画がコンペ部門に出品され好評で迎えられた。ほかに88年のSF"Navigater:An Odyssey Time"があり、ウォルター・ヒルがこれを絶讃し「エイリアン3」のスタッフに加わった。

撮影監督●アレックス・トムソン
Alex Thomson

「レジェンド／光と闇の伝説」で英アカデミー撮影賞受賞。「エクスカリバー」で米アカデミー賞にノミネートされた。

ロンドン生まれで46年に映画入りしこれまで39本の劇場映画を撮影。作品は「スーパーマン」「スーパーマンⅡ冒険篇」「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」「シシリアン」（マイケル・チミノ監督）「ラビリンス／魔王の迷宮」「プランケット城への招待状」「リバイアサン」など。

プロダクション・デザイン
●ノーマン・レイノルズ
Norman Raynolds

「スター・ウォーズ」「レイダース／失われたアーク」でアカデミー美術賞を受賞した。

62年から映画界で下積みをへて美術監督に。

作品に「戦略大作戦」「スター・ウォーズ／帝国の逆襲」「スター・ウォーズ／ジェダイの復讐」「ヤング・シャーロック／ピラミッドの謎」「愛と野望のナイル」「スーパーマン」「スーパーマンⅡ冒険篇」「太陽の帝国」、近作は「わが心のボルチモア」。

34年ロンドン生まれ。第2次世界大戦中は兵役につき、除隊後広告代理店に就職し、「ミサイル珍道中」を撮影中の映画スタジオにお使いで行った時、映画美術の仕事をする決意をした。イギリスのMGMスタジオの美術部に就職。多くの映画美術デザイナーは製図工としての資格を持ち、建築の経験者が多い。彼はまったくの独学で美術部のあらゆる仕事をこなしトップの座にのぼりつめた。「エイリアン3」の"フィオリーナ161"の美術は、前2作とはまた違う映画美術の最高美を見せる。

エイリアン・イフェクトのデザイン＆製作
●アレック・ギリス●トム・ウッドラフ・ジュニア
Alec Gills and Tom Woodruff, Jr

特殊メイクとクリーチャー・イフェクトの分野でプロの経験を9年以上も持つ2人は、クリーチャーのデザインと製作、特殊メイクのデザインと装着、特殊効果シーンのデザインと絵コンテ、セカンド・ユニット監督など広範囲の分野でその才能を発揮している。

83年から88年の間、彼らは、「エイリアン2」のクリーチャー・イフェクトを製作したスタン・ウィンストン・スタジオの主要メンバーとして活躍してきた。デザインから予算管理、40人ものアーティストと技術者チームの指揮まで、製作のあらゆる面に携わり、「プレデター」「スターマン／愛・宇宙はるかに」「ターミネーター」などを手掛けている。彼らが在籍中、スタン・ウィンストン・スタジオは、アカデミー賞、イギリスのアカデミー賞、ふたつのサターン賞に輝いている。

そのほか、ギリスとウッドラフは、「スター・トレック3／ミスター・スポックを探せ／」「コクーン」のクリーチャー・イフェクトにも携わっている。彼らが設立したアマルガメイテッド・ダイナミックスでは、映画「トレマーズ」と"Korman's Kaiamity"、そしてHBOの"Tales From the Crypst"の1話の特殊効果を製作している。

視覚効果監修●リチャード・エドランド
Richard Edlund

「スター・ウォーズ」「スター・ウォーズ／帝国の逆襲」「スター・ウォーズ／ジェダイの復讐」「レイダース／失われたアーク」で4度アカデミー賞特殊効果賞を受賞しているSFX界の巨匠。彼の主宰するSFXスタジオ、ボス・フィルム・コーポレーションが今回は全力をあげて視覚効果を担当している。

40年12月6日、ノースダコタ州ファーゴ生まれ。海軍写真学校に学び、63年にテレビ界に入り「ミステリー・ゾーン」「宇宙大作戦」などに参加。ロックのプロモーション・フィルムやCMを手掛け、ジョージ・ルーカスのILMで才能を認められる。

主な作品は「ポルターガイスト」「2010年」「フライトナイト」「ポルターガイスト2」「ゴーストバスターズ」「ピーウィー・ハーマンの空飛ぶサーカス」Ⓥ「ダイ・ハード」などがある。90年公開「クライシス2050」は、学研とNHKエンタープライズが出資して作られたSFだがエドランドは特撮監督と、プロデューサーも兼ねていた。テレビCMにも登場し日本が大好きだ。

「今日、ひときわ目立つ映像を作るには、既成の特殊効果を使っていてはダメ。劇場映画製作は、リスクの高い競争率の激しいビジネスで、僕達はテストパイロットのようなものさ。観客を今まで行ったことのない所へ連れて行くことがつとめだからね」と言っている。

特殊効果●ジョージ・ギブス
George Gibbs

「インディ・ジョーンズ／魔宮の伝説」で85年度アカデミー賞を受賞。「ロジャー・ラビット」でも、アメリカとイギリスのアカデミー賞を受賞している。

37年ロンドンのアイリングトン生まれ。50年代後半にはパインウッド・スタジオで最初は電気技師として、その後は移動マット効果を手掛ける。特殊効果を手掛けた初期の作品には、彼が特殊な回転セットを考案したノーマン・ウィズダムのコメディ"Following a Star"、テレビシリーズ"Interpol Calling"などがある。一時期アメリカのアイスショー団に入り、60年代初めの2年間ヨーロッパ巡業に参加し、ショーのアシスタント・ディレクターをつとめた。

64年に映画界へ復帰した彼は、ジェリー・アンダーソンと組み「サンダーバード」、"Captain Scarlet"、"Joe90"などの人気アニメ劇の製作に加わり、特殊効果の2人のパイオニア、故レスリー・ボウイとオスカーに輝くデレク・メディングスと特殊効果チームに入り、「空軍大戦略」の大掛かりな製作にも携わっている。

特殊効果主任としての初めての作品は68年の「ネモ船長と海底都市」。代表作は、「スーパーマン」「フラッシュ・ゴードン」「針の眼」「コナン・ザ・グレート」「ラグタイム」「ピンク・パンサー5／クルーゾーは二度死ぬ」「モンティ・パイソン　人生狂騒曲」Ⓥ「未来世紀ブラジル」「イシュタール」「インディ・ジョーンズ／最後の聖戦」「エア・アメリカ」など。

編集●テリー・ローリングス
Terry Rawlings

「エイリアン」第1作でみごとな編集の腕を見せた。このリドリー・スコット監督とは「デュエリスト」以来のコンビで「ブレードランナー」「レジェンド／光と闇の伝説」でも組んでいる。

フィルム・ライブラリーの仕事をしていたが、EMIにサウンド・エディターとして入社。ケン・ラッセル監督と知り合い、「肉体の悪魔」と「トミー」で組んだ。

アカデミー受賞作「炎のランナー」をはじめ、「ウォーター・シップダウンのうさぎたち」「センチネル」「ピラミッド」「華麗なるギャッツビー」「F／X引き裂かれたトリック」「風の惑星」「愛のイエントル」「ホワイト・アイズ／隠された狂気」Ⓥなどの編集を担当している。

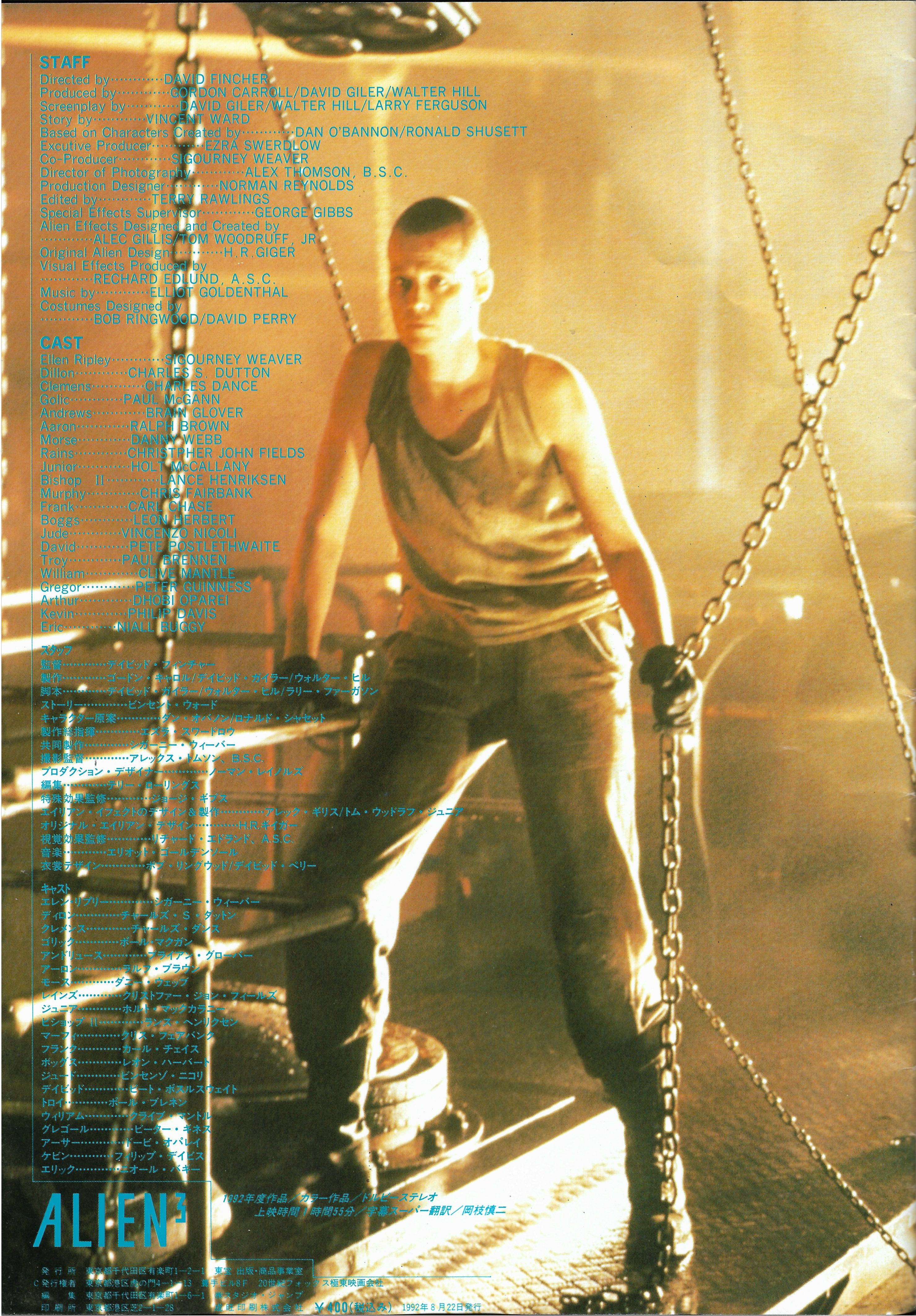
音楽●エリオット・ゴールデンソール
Elliot Goldenthal

ブルックリン生まれ。幼い頃アーロン・コップランドとジョン・コリゴイアーノに師事、ニューヨークのマンハッタン・スクール・オブ・ビジネスで作曲の学士と修士号を取得。

アメリカン・レパートリー・シアターが上演し、3度もワールド・ツアーで演じている"The King Stage"の音楽を作曲。

87年には、ミュージカル劇"Transposed Heads"を書き、リンカーン・センターでスティーブン・ソンダイム賞を受賞。

翌年には、レナード・バーンスタインの70才の誕生日の記念曲の作曲家に選ばれている。同年には、ミュージカル"Juan Darian"の共同脚本と作曲を担当、オビー賞、アメリカン・アーツ・レターズ・リチャード・ロジース賞を受賞し、90年エジンバラ・フェスティバルの批評家賞受賞。



STAFF

Directed by…………DAVID FINCHER
Produced by…………GORDON CARROLL/DAVID GILER/WALTER HILL
Screenplay by…………DAVID GILER/WALTER HILL/LARRY FERGUSON
Story by…………VINCENT WARD
Based on Characters Created by…………DAN O'BANNON/RONALD SHUSETT
Excutive Producer…………EZRA SWERDLOW
Co-Producer…………SIGOURNEY WEAVER
Director of Photography…………ALEX THOMSON, B.S.C.
Production Designer…………NORMAN REYNOLDS
Edited by…………TERRY RAWLINGS
Special Effects Supervisor…………GEORGE GIBBS
Alien Effects Designed and Created by
…………ALEC GILLIS/TOM WOODRUFF, JR
Original Alien Design…………H.R.GIGER
Visual Effects Produced by
…………RICHARD EDLUND, A.S.C.
Music by…………ELLIOT GOLDENTHAL
Costumes Designed by
…………BOB RINGWOOD/DAVID PERRY

CAST

Ellen Ripley…………SIGOURNEY WEAVER
Dillon…………CHARLES S. DUTTON
Clemens…………CHARLES DANCE
Golic…………PAUL McGANN
Andrews…………BRAIN GLOVER
Aaron…………RALPH BROWN
Morse…………DANNY WEBB
Rains…………CHRISTPHER JOHN FIELDS
Junior…………HOLT McCALLANY
Bishop II…………LANCE HENRIKSEN
Murphy…………CHRIS FAIRBANK
Frank…………CARL CHASE
Boggs…………LEON HERBERT
Jude…………VINCENZO NICOLI
David…………PETE POSTLETHWAITE
Troy…………PAUL BRENNEN
William…………CLIVE MANTLE
Gregor…………PETER GUINNESS
Arthur…………DHOBI OPAREI
Kevin…………PHILIP DAVIS
Eric…………NIALL BUGGY

スタッフ
監督…………デイビッド・フィンチャー
製作…………ゴードン・キャロル/デイビッド・ガイラー/ウォルター・ヒル
脚本…………デイビッド・ガイラー/ウォルター・ヒル/ラリー・ファーガソン
ストーリー…………ビンセント・ウォード
キャラクター原案…………ダン・オバノン/ロナルド・シャセット
製作総指揮…………エズラ・スワードロウ
共同製作…………シガーニー・ウィーバー
撮影監督…………アレックス・トムソン、B.S.C.
プロダクション・デザイナー…………ノーマン・レイノルズ
編集…………テリー・ローリングス
特殊効果監修…………ジョージ・ギブス
エイリアン・イフェクトのデザイン＆製作…………アレック・ギリス/トム・ウッドラフ・ジュニア
オリジナル・エイリアン・デザイン…………H.R.ギイガー
視覚効果監修…………リチャード・エドランド、A.S.C.
音楽…………エリオット・ゴールデンソール
衣裳デザイン…………ボブ・リングウッド/デイビッド・ベリー

キャスト
エレン・リプリー…………シガーニー・ウィーバー
ディロン…………チャールズ・S・ダットン
クレメンス…………チャールズ・ダンス
ゴリック…………ポール・マクガン
アンドリュース…………ブライアン・グローバー
アーロン…………ラルフ・ブラウン
モース…………ダニー・ウェッブ
レインズ…………クリストファー・ジョン・フィールズ
ジュニア…………ホルト・マックカラニー
ビショップ II…………ランス・ヘンリクセン
マーフィ…………クリス・フェアバンク
フランク…………カール・チェイス
ボッグス…………レオン・ハーバート
ジュード…………ビンセンゾ・ニコリ
デイビッド…………ピート・ポスルスウェイト
トロイ…………ポール・ブレネン
ウィリアム…………クライブ・マントル
グレゴール…………ピーター・ギネス
アーサー…………ドービ・オパレイ
ケビン…………フィリップ・デイビス
エリック…………ニオール・バギー

ALIEN³

1992年度作品／カラー作品／ドルビーステレオ
上映時間1時間55分／字幕スーパー翻訳／岡枝慎二

発行所　東京都千代田区有楽町1−2−1　東宝 出版・商品事業室
C発行権者　東京都港区虎の門4−1−13　葺手ビル8F　20世紀フォックス極東映画会社
編集　東京都千代田区有楽町1−6−1　㈱スタジオ・ジャンプ
印刷所　東京都港区芝2−1−28　成旺印刷株式会社　¥400(税込み)　1992年8月22日発行

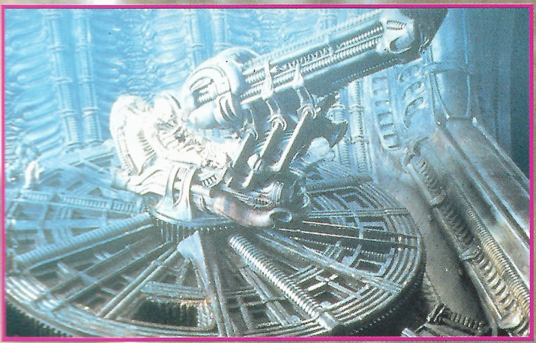
エイリアンの進化をビデオでキャッチ!

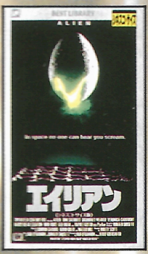
"エイリアン"シリーズ ビデオ 絶賛発売中!

宇宙では、あなたの悲鳴は誰にも聞こえない。

エイリアン

シガーニー・ウィーバー/トム・スケリット/ベロニカ・カートライト
監督:リドリー・スコット 製作:ゴードン・キャロル/デイビッド・ガイラー





シネスコ・サイズ版
FTW-1090 ¥3,800(税込)

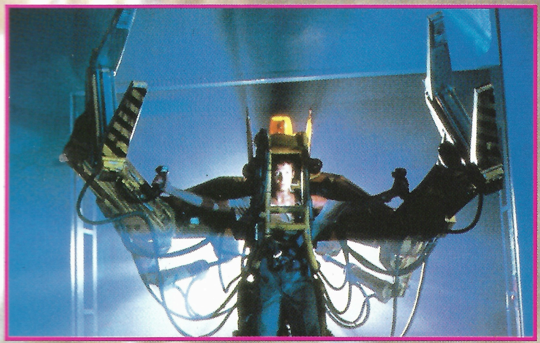
字幕スーパー版(TVサイズ)
CFT-1090 ¥3,800(税込)

日本語吹替版(TVサイズ)
CFTA-1090 ¥3,800(税込)

今度は戦争だ!

エイリアン2

シガーニー・ウィーバー/マイケル・ビーン/ランス・ヘンリクセン
監督:ジェームズ・キャメロン 製作:ゲイル・アン・ハード





エイリアン3公開記念・特別限定50,000セット
完全版+メイキング オブ エイリアン3
FOX-1802 ¥14,420(税込)

字幕スーパー版(TVサイズ)
CFT-1504 ¥3,800(税込)

日本語吹替版(TVサイズ)
CFTA-1504 ¥3,800(税込)

発売:フォックスビデオ ジャパン 株式会社 販売:日本エイ・ブイ・シー株式会社



IN 1979 IT CAME FROM WITHIN. IN 1986 IT WAS GONE FOREVER. IN 1992 OUR WORST FEARS HAVE COME TRUE.
IT'S BACK.
SUMMER 1992
TWENTIETH CENTURY FOX Presents A BRANDYWINE Production SIGOURNEY WEAVER ALIEN³ CHARLES DANCE CHARLES S. DUTTON and LANCE HENRIKSEN Music by ELLIOT GOLDENTHAL Visual Effects Produced by RICHARD EDLUND, A.S.C.
Alien Effects by ALEC GILLIS and TOM WOODRUFF, JR. Edited by TERRY RAWLINGS Production Designer NORMAN REYNOLDS Director of Photography ALEX THOMSON, B.S.C. Executive Producer EZRA SWERDLOW Based on Characters Created by DAN O'BANNON and RONALD SHUSETT
Story by VINCENT WARD Screenplay by DAVID GILER, WALTER HILL and LARRY FERGUSON Produced by GORDON CARROLL, DAVID GILER and WALTER HILL Directed by DAVID FINCHER
PANAVISION
Original Motion Picture Soundtrack Album on MCA. Compact Discs and Cassettes
©1992 Twentieth Century Fox Film Corporation All Rights Reserved
20th CENTURY FOX
東宝
PRINTED IN U.S.A.